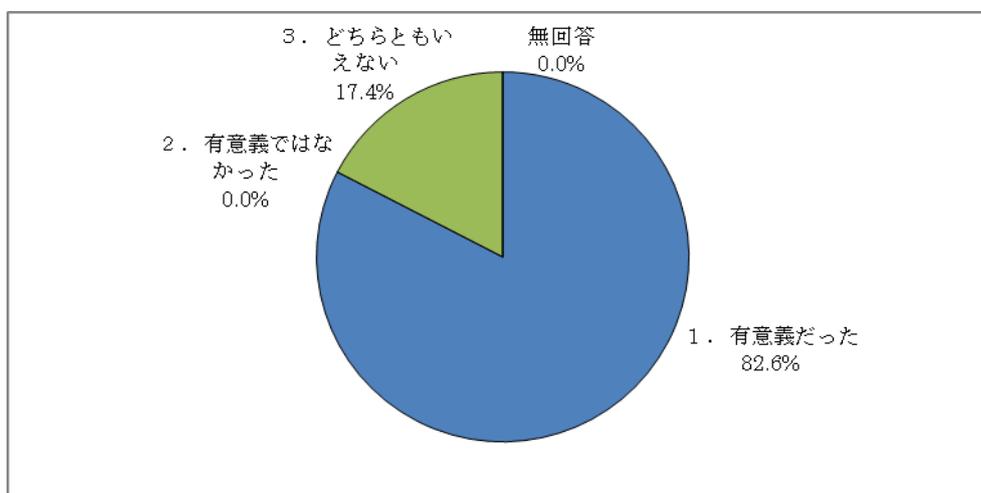


平成21年度 第2回全学FD アンケート結果について

実施日 : 平成21年9月8日(火)
参加者数 : 61人(関係者を除く)
回収枚数 : 23枚
回収率 : 37.7%

質問1 今回の全学FDは、「体験活動を通じた学習成果の達成」をテーマに採り上げましたが、その意義を理解し、あなたの所属する部局で教育改善を行ううえで有意義でしたか。

1. 有意義だった	19(人)	82.6(%)
2. 有意義ではなかった	0	0.0
3. どちらともいえない	4	17.4
無回答	0	0.0



質問2 質問1において「有意義ではなかった」「どちらともいえない」とお答えいただいた方にうかがいます。そう答えた理由、また、もっと詳しく知りたかったことは何ですか。

『体験活動』の範囲が広く、事例報告が単なる報告にとどまっていたように思う。
2つの報告内容を貫く明確なテーマが必要だったのではないかと(2件)
ほか、「新しい視点は得られなかった」「学生の苦労話や考えも知りたかった」

質問3 今回の全学FDの中で特に印象深かった企画は何ですか。また、その理由をお書きください。(複数回答可)

1. 取組紹介① 教育学部	1 (人)	4. 3 (%)
2. 取組紹介② 芸術工学部	8	34. 8
3. 取組紹介③ 数理学府	11	47. 8
4. パネルディスカッション	12	52. 2

1	分りやすくテーマが深めてあった／教育学部の求める人材像や目標とのつながりが見えなかったです
2	大学・地域のパートナーシップ／明確な理念・方針を持っていたから／学部の内容をよく知らなかったので思いがけないフィールドと関係があることを知ることができた／芸術工学部はどのような教育をしているのかなかなか分らなかったが、具体的な取組を聞いて教育の目的等が良く分かった／海外の取組との関連性について紹介があり参考になった／知らない人とコラボレーションすることが大切で知人・友人とはチームを作れないというのは参考になった／あれだけの内容の実習となると、担当の先生の過負担にならないか心配になった
3	九大生の気質、インターシップ学生の感想、企業の評価、今後の課題、教員も外の世界を～／伝えたい内容が明確であった／大学院生の就職に役立ちそうだったから／検討中のインターシップの形態について参考になった／ずいぶん前に若山先生の話聞いていたのでその成果を具体的に聞くことができ良かった／非常に具体的で魅力的な内容であった。理系分野の博士就職に対する解決策であると感じた／先生からの反省点今後のテーマが素敵だったので。共感できます。事務職ですが雇用が切れたので外の世界を6～7年経験しての出戻りです。私が何をできるのか？と2年間考えながら仕事をしてきました。先生とお話したいと横着にも思ってしまった発表でした
4	学生の話／インターシップカリキュラムの重要性、大学教育改革の必要性／インターシップの意義、大学教育へのフィードバックの重要性がわかった／実践教育に関わる先生や学生の意見を伺うことができ大変参考になりました／色々な立場におられる方々の意見を聞くことができた／パネルディスカッションがあまりディスカッションになっていなかったのが残念です(2件)／個別の取組→学生の声→大学の方針、という流れができていたことが良い。これからの九大としては各学生がタグを組んで「格闘する学びの場」ではないか／大学の状況等知らないことを知るきっかけになりました。GPの事務の採用でしたがGP以外の先生方のたまりにたまるとぼっちりの洗礼を受けました。本当にこんなことをやっている時ではないということが理解できました。大変な目にあいましたがたくさんの方に救われました。感謝です。／砂田

	先生のお話が特に刺激的だった／教員のFDに関する話題があった。砂田さんの話にインパクトがあった／砂田先生が「士官」とか「兵隊」とか「士官」がえらいという感じの話し方をしていた。この先生が教育を議論する資格があるとは思えない！
全	学生の意見が大変参考になった／実践された先生方の報告が参考になった／（1～3）具体的に社会参加からの学びをしているのでとてもよいと思う／1，2は何を伝えたいのか良く理解できなかったし参考にならないと思われる

質問4 今回の全学FDで採り上げられた部局の取組について、あなたの所属する部局でも採り入れたいと思われた点があればお書きください。また、それはどのような点で優れていると考えられたからですか。

○芸術工学部の取組に関して（実践的な導入教育）

導入教育の部分で新入生合宿研修のグループワーク／問題解決、課題発見能力を身につける前提となる基礎教育の在り方としての、芸工の導入教育「共に学ぶ」という教育姿勢／連携する力を育成-様々な経験や知識人格をつなげる能力／学生に色々経験させるのは、視野を広める意味でも、将来の選択をする意味でも大切だと感じた。全学教育でもこの様な実習がもっとあると良い

○数理学府の取組に関して（インターンシップ）

インターンシップとその後の報告会のようなもの／インターンシップ教育との関係が成立している点／長期インターンシップ（数理研）研究職にのみ進路を考えがちな博士課程の学生の視野を広げることができそう／学生にとって（教員にとっても）社会の中での研究の有り方を知るのに有意義と思う／医療職の国家資格を育成する学部は、そのまま、現実の世界で実習しているので、現実の世界に投げ込まれている状況である。（全員）病院、在宅、訪問介護、障害児（者）施設、保健所、ただ医療施設だけでなく医療介護周辺の企業（材料、製薬、食品、介護器具、機器、ロボットなど）のインターンシップなどを採り入れ、視野を広める取り組みができれば良い

○パネルディスカッションに関して

社会における大学教育の位置づけ、カリキュラム改革への還元

○全体

1つのテーマをほりさげているのが素晴らしいと思います

質問5 あなたの所属する部局で、学外の機関との連携を含め、体験活用を通じた教育方法の工夫をはかる際に課題となっていることは何だとお考えですか。また、解決策について個人的な考えも含め自由にお書きください。

○学外との連携に関して

相手選び／相手先との調整。インターシップが可能になるような取組、打ち合わせ／企業と大学の背景、立場の違いの理解／研究と教育のバランスをどうするかが課題であると思う。研究がらみの学外機関との連携は日常的に行っているが、教育目的の連携は少ない

○学生に関して

学生の経済的支援／学生の社会的マナー、ルール、約束事の文書化、マニュアル化（これはとても大切）／企業秘密等のため、実際に学生が長期に活動するのが難しかったり活動の報告をしにくかったりすること／インターシップで学生と企業がマッチングできない。他大学のようにインターシップコーディネーターを設置したら企業ニーズにマッチングできるのではないかと思います

○教員（人員・労力）に関して

教員の温度差の調整／担当教職員人材不足、専門機関の設立が必要／対外的連携は可能であるが作業のすみ分けを上手く行わないとオーバーワークになりかねない。大学からの資金的・人的支援が必要と思われる／部局の中でもある程度の数の教員で協力しないと実現は大変厳しいと感じた。それ以前に、任期付きの教員には全く現実的な取り組みではなかった

○予算に関して

財源の問題（学生の交通費、宿泊費、相手先の謝金、打ち合わせ時のお土産など）／実践教育に協力いただいている外部の機関に（非常勤教員として担当いただいている方）に支払う非常勤費用の枠が年々減少している。学外の機関との連携を進める場合、謝金等いないという機関もある。今後協力機関を増やす必要もあり、非常勤の枠組ではなく謝金のような形で支払うなど予算執行面での柔軟性も必要ではないかと考えている。（すでに可能でしたら申し訳ございません）

○その他

単位として認めるか、課外活動かいつも問題となる。単位化しないと学生も教員も動かない／不測時の対応（マニュアルを作成している）連絡方法／教員と学生の時間の調整／時間割の調整（これがないと夏休み中にやったりしないといけない）

質問6 今回のFDでは、新たな試みとして学生（院生）に参画してもらいましたが、このことについてどのような感想をもたれましたか。企画そのものや学生の印象も含め自由にお書きください。

○企画について

学生の視点からというテーマに合致するもの／教員も変わろうとしていることを知ってもらうきっかけの場となっていると思う／もう少し学生の人数が多いとよいと思います。司会が学生、パネルディスカッションのパネラーが学生の会があっても良いと思います

○学生について

学生の生の声（学生の視点、率直な意見）が聞けて有意義だった（同意見多数）／学生の立場からの意見はとても参考になった。教育は学生が主人公／最も現場に近い声が聞こえた／学生の率直な意見が少しでも大学教育の改革に活かされればと思います／新鮮でした。学生が目的意識をはっきり持ってました／これからも参加をお願い致します／「経験者の意見が聞けた」という意味で良かったと思います／学生がどのようなことを学んだかをより詳しく述べてもらえるとより理解できるとおもいます／学生さんの視点が分かるのは良いと思うが議論の中ずっといることが彼らにとって良いのかどうか考える必要がある／学生自身にFDの意識がないので発表で終わっていると思います。事前に綿密に説明する等の準備が必要だとおもいます。感想も単にこうなったというのではなく「こういう経験が私をこう変えさせた！」という説明があるとより分かりやすいと思います／もっと発表する学生の数を増やすとよいと思います

○その他

教育にリアルさを求める声大きい。リアルさが活性化する／試みとして成立していない／机、椅子の配置がかたくなるようです

質問7 全学FDに対する意見、提案等ありましたら自由にお書きください。

○議論の内容について

丸野俊一学長（教育担当理事）はトップダウンで行くぞと言われるが、本当にビジョンをお持ちなら示すべきであり各学部に行きそこでの現状把握を行うべきである／九大として「九大は」という点だけでいつも議論している気がする。「大学として」、「大学教育として」という視点の上しか成立できない。この点をもっと重視する企画も必要／討議の時間が全く有意義ではなかった。砂田先生の偏見に満ちた意見に閉口した。もっ

と広い視野を持つべき。プレゼンも分かりにくかった／学内向けで良いので YouTube 等で全学FDの内容を見られるようにすべきである。一部の教員だけが参加すれば良いというものではない。会場の意見をもっと取り入れる運営をすべきである。パネルディスカッションになっていない／今回の前2つの内容と数理のインターシップは質的に違っている。無理に組み合わせる必要はないのでは／もっと露骨に全学の意見を言うのもありかもしれません。「体験活動、やってください。そのための事例です。」とか。そうしないと、耳学問で終わりそうです

○感想、要望

FDでは貴重な取組・意見を伺うことができ大変参考になった。ありがとうございました／学生も含めて現場からのプレゼンとコメントとのバランスがとれていて有意義でした。今後も現場を中心にFD・SDを続けてほしいと思います／事務関係者の意見交換の場などもあればと思っています。今後も続けて頂ければ幸いです／このような、ディスカッションを増やしてほしいと思います。学生参加型を増やした方がよいと思います／全学FDの参加者が必ずしも多くなくもったいないと感じた／キャンパスごとにおこなっていただけるといいかも